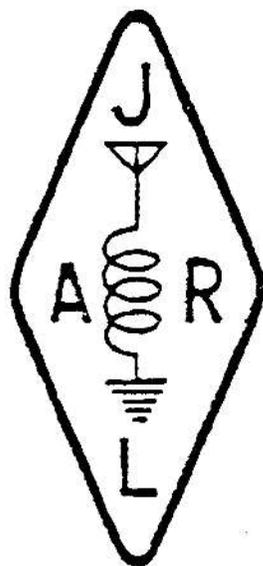


アマチュア無線再開40周年記念

東北地方記念式典



社団法人 日本アマチュア無線連盟
東北地方本部

アマチュア無線再開40周年記念 東北地方記念式典

平成4年11月7日
ホテルリッチ仙台 蔵王の間

式典

1. 開会の辞

2. 本部長式辞

JARL 東北本部長 高山 博之

3. 表彰

4. 来賓祝辞

JARL 会長 原 昌三殿
東北電気通信監理局長 笠井 哲哉殿

5. 閉会の辞

祝宴

6. 実行委員長式辞

JARL 宮城県支部支部長 山之内俊彦

7. 御挨拶

JARL 東北本部長 高山 博之
JARL 会長 原 昌三殿

8. 乾杯

 抽選会

9. 終了の挨拶

ごあいさつ

東北地方本部長 高山博之

J A 7 C C R

昭和27年7月アマチュア無線が再開されてから、今年で丁度40周年に当たります。本日この会場においでいただきました皆様、又ご都合でご出席でなかった方々と共に、この様にまで大きく成長したアマチュア無線を楽しむ事ができますことは、誠に喜ばしく存ずる次第であります。

アマチュア無線は、昭和初期、私設無線電信電話実験局として誕生しその後、戦争により使用が中止され昭和27年電波法改正により正式にアマチュア無線が認められた訳です、それから半世紀以上の歳月が過ぎ幾多の変遷を経ながらアマ無線の歴史を変え新しい技術、新しい内容に変わって来ました、今、アマチュア無線は更なる出発をしようとしております。

J A R Lの組織は勿論のこと、アマチュア無線関係の法令の改正により新しい技術が大きく取り入れられるようになり、益々アマチュア無線の運用が楽しいものとなって参りました、又、ハード的にも世界に冠たる進歩をとげ今や日本は世界をリードするアマチュア立国となりました。これも一重に先輩諸氏の苦勞があったればこそで、戦前、戦後を通じこの道一筋に努力されて来た方々に、深甚なる敬意を表する次第であります。

本日は、アマチュア無線再開40周年東北記念式典に当たり、これまでにお世話になった方々、アマチュア無線にご活躍いただいた方々に、お礼の意味を込めまして表彰させていただきました。どうぞこれからも尚一層のご活躍をご祈念申し上げます。

これからは、数の多さだけでなく今まで築かれた技術と歴史を元に、益々、開拓精神を発揮し心豊かなアマチュア無線を築いて行かねばならないと存じます。

最後にご多忙の中わざわざお越しいただきました、東北電気通信監理局長、又、式典の準備して頂きました、山之内支部長他の皆様に深くお礼申し上げます。

アマチュア無線再開40周年にあたり



社団法人 日本アマチュア無線連盟
会長 原 昌 三

わが国のアマチュア無線は昭和2年に正式に許可され、以来約65年の歴史がありますが、その間、大戦による苦難の時代がありました。しかし、昭和27年の再開から今日まで40年の間において、アマチュア無線家の熱意ある日々の活動に加え、資格制度の改革や技術的發展にともなう新しい通信方式の許可などがあり、現在わが国では世界一の120万を超えるアマチュア無線局が活躍するようになりました。

このように、アマチュア無線が最も盛んな国となった我々といたしましては、これからもさらにその健全な発展に努めるとともに、これが持つ国境を越えた広がりをも十分に生かし、世界にアマチュア無線が等しく行われ、これを通して科学技術の知識の普及と人々の理解がさらに進むよう、心新たにこれからも努力してまいりたいと存じます。

終わりに、今日の発展の基礎を築かれ努力を続けて来られました先輩諸氏、並びに永年ご理解とご協力をいただいております。ご当局を始め関係各位に対し厚く感謝と敬意を表する次第です。アマチュア無線再開40周年の記念すべき日にあたり、本連盟に対する今後一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

アマチュア無線再開 40 周年記念 受賞者名簿

< 青森県 >

JA7JE	舘岡勝	治明	殿
JA7JW	佐藤	浩一	殿
JA7PD	尾野	浩一	殿
JA7XX	橋本	修弘	殿
JA7ADD	鈴木	正幸	殿
JA7AWY	久保田	幸造	殿
JA7AXB	佐々木	紀雄	殿
JA7BHX	類家	弘資	殿
JA7BIJ	月舘	弘勝	殿
JA7BJO	澤田	慎一	殿
JA7CCG	木村	邦衛	殿
JA7CKN	田澤	与志	殿
JA7CUA	安西	三津	殿
JA7ELP	堀	徳郎	殿
JA7FUS	二ノ久保	好彦	殿
JA7GFX	馬場	吉弘	殿
JA7GUL	橋本	吉弘	殿
JA7GVF	田村	利美	殿
JA7ICM	芋田	利勝	殿
JA7IFT	永井	雄之助	殿
JA7IYD	松本	良樹	殿
JA7KZF	宇野	信男	殿
JA7MQP	村田	純一	殿
JA7MSL	米田	隆雄	殿
JA7NJU	岩岡	正道	殿
JA7NUZ	大川	直美	殿
JA7NVF	荒谷	伸博	殿
JA7OUV	長内	正男	殿
JA7QAN	小山	昇三	殿
JA7RVW	山中	島昇	殿
JA7SDI	中島	隆太郎	殿
JA7TSJ	深尾	谷博	殿
JA7UAO	熊谷	喜代間	殿
JH7BAD	佐藤	優治	殿
JH7BXI	市沢	上昇	殿
JH7CZW	磯上	雅之	殿
JH7GCU	西村	渡正	殿
JH7HIO	中野	藤良	殿
JH7IQQ	伊藤		殿

JH7JVJ	松原	節夫	殿
JH7NQX	藤田	正昭	殿
JH7QDE	小又	繁男	殿
JH7QQJ	鈴木	昭吾	殿
JH7UNC	川村	雅明	殿
JH7VIB	八大	橋一	殿
JR7ACS	大原	野義	殿
JR7BCE	日野	来初	殿
JR7BVQ	大粒	橋善	殿
JR7NXM	高橋	田善	殿
JR7ROF	久保	守	殿
JR7ROG	久保	守	殿
JR7XWU	沢内	藤勝	殿
JE7BCR	山内	藤照	殿
JE7JGG	佐藤	照子	殿
JE7JGH	石戸	行克	殿
JE7KCH	斉藤	信吾	殿
JE7NRP	大橋	幸雄	殿
JE7OWS	和田	貴昭	殿
JE7TDH	信濃	恒和	殿
JE7WTW	木村	寺正	殿
JF7AKP	滝沢	中広	殿
JF7LDT	新山	浮木	殿
JF7QHF	相内	JARL八戸クラブ	殿
JF7VZN	河村	やまびこクラブ	殿
JJ7HAV	小野	八戸マリナムクラブ	殿
JJ7WFG	畑中		殿
JJ7WJU	浮木		殿
JA7YFO	JARL八戸クラブ		殿
JA7ZHW	やまびこクラブ		殿
JA7ZIG	八戸マリナムクラブ		殿

< 岩手県 >

JA7AX	菅久	直大	殿
JA7BB	南田	禮利	殿
JA7BI	村田	昌司	殿
JA7BL	織笠	淳夫	殿
JA7CQ	中村		殿
JA7DO	田中		殿
JA7HW	竹内	敏夫	殿

JA7IU	八重	重	擡	昇	殿
JA7OB	倉堀	堀		泉	殿
JA7PH	千葉	葉	勝	一	殿
JA7QM	菅原	原	宏	次	殿
JA7RG	照井	井		誠	殿
JA7SN	金森	森	丕	彰	殿
JA7TL	村上	上	昌	邦	殿
JA7ABU	清水	水	潔	之	殿
JA7AMK	伊藤	藤	清	郎	殿
JA7AOM	及川	川	忠	人	殿
JA7CDF	熊谷	谷	敏	夫	殿
JA7CLC	小岩	岩		功	殿
JA7CQQ	坂下	下	政	光	殿
JA7CUR	齋藤	藤	文	夫	殿
JA7KID	岩間	間		毅	殿
JA7KOQ	西村	村	幸	雄	殿
JA7LHO	上山	山	喜	一	殿
JA7MAV	佐々木	々木	達	郎	殿
JA7UES	遠藤	藤	隆	史	殿
JH7BOS	遠野	野	拓	治	殿
JH7IUE	磯崎	崎	榮	亮	殿
JH7IZV	久保	保	知	久	殿
JH7JMD	馬場	場	光	男	殿
JH7UGL	吉田	田	政	志	殿
JR7MFP	菊池	池	福	太	殿
JE7BTV	下堀	堀	富	男	殿

< 秋田県 >

JA7AB	三浦	浦	恒	裕	殿
JA7AO	松本	本	得	朗	殿
JA7CF	新谷	谷	健	之	殿
JA7CP	今野	野	孝	助	殿
JA7DW	佐々木	々木	由	行	殿
JA7DY	原田	田	勇	作	殿
JA7ED	神坂	坂	正	明	殿
JA7FA	小川	川		隆	殿
JA7FS	佐々木	々木	耕	一	殿
JA7HY	住谷	谷	正	男	殿
JA7IE	藤井	井	曉	夫	殿
JA7MA	佐々木	々木	鏡	吉	殿
JA7MI	深井	井	鴻	吉	殿
JA7ND	相馬	馬	与	勝	殿
JA7RY	秋山	山		優	殿

JA7UG	大野	野	悦	朗	殿
JA7UJ	石田	田	雅	士	殿
JA7ZB	榊原	原	宏	之	殿
JA7ZF	大友	友	正	雄	殿
JA7ZP	舟木	木	秋	弥	殿
JA7AGL	相沢	沢	喜	夫	殿
JA7AGO	富岡	岡	孝	允	殿
JA7BZA	岡田	田	泰	夫	殿
JA7CQT	吉田	田	和	男	殿
JA7DCY	石川	川		健	殿
JA7DWF	斎藤	藤	雅	則	殿
JA7DWU	斎藤	藤		諒	殿
JA7EGM	繼田	田		敏	殿
JA7FLJ	高山	山	一	則	殿
JA7GDU	山井	井	昌	二	殿
JA7HMZ	井藤	藤	邦	弘	殿
JA7JPK	斉藤	藤	祐	一	殿
JA7LDH	袴田	田	清	秀	殿
JA7000	佐藤	藤	英	明	殿
JA7SXI	佐山	山	春	男	殿
JA7WRQ	昌川	川	孫	太	殿
JH7HXS	藤石	石		悟	殿
JH7IOE	石岡	岡		智	殿
JH7XWT	佐々木	々木		薰	殿
JR7CPN	阿部	部		三	殿
JR7IYQ	阿藤	藤	長	か	殿
JR7QKR	川原	原	ふ	彦	殿
JE7TAX	高田	田	一		殿

< 山形県 >

JA7CL	設楽	楽	要	殿
JA7FH	石黒	黒	義	殿
JA7GD	井上	上	隆	殿
JA7GY	斉藤	藤	志	殿
JA7OV	高橋	橋	津	殿
JA7TF	大沢	沢	良	殿
JA7VH	大渡	渡	能	殿
JA7EIF	池田	田	広	殿
JA7DMX	加賀	賀	山	殿
JA7ADQ	加鈴	鈴	木	殿
JA7ANL	竹越	越	富	殿
JA7ABL	松木	木	征	殿
JA7BCN	樋渡	渡	甚	殿

JA7FSP 玉橋康男殿
 JA7ITZ 五十嵐浩殿
 JA7JXG 橋本辰雄殿
 JA7LLY 佐藤 俊齊殿
 JA7LOX 田中 俊明殿
 JA7MKX 齊藤 芳次殿
 JA7OUD 齊藤 豐安殿
 JA7PDU 齊藤 貞一殿
 JA7QLS 阿金 野司殿
 JA7RYX 新野 山幸殿
 JA7SFD 新舟 久正殿
 JH7CZO 佐久間 正男殿
 JH7FTH 山本 久健殿
 JH7JSH 荒鹿 充重殿
 JH7PFF 小日 野重殿
 JR7ABB 日野 重殿
 JF7KQU 鈴木 重殿

< 宮城県 >

JA7AD 神尾 栄殿
 JA7GS 油井 一殿
 JA7IJ 斎新 太朗殿
 JA7IO 菅野 直殿
 JA7JS 菅田 友和殿
 JA7KC 赤間 操殿
 JA7KP 辺次 俊雄殿
 JA7LN 大畑 暉夫殿
 JA7MN 菅藤 公洋殿
 JA7OD 高橋 邦之介殿
 JA7OL 村上 俊夫殿
 JA7OQ 村上 俊夫殿
 JA7OW 岩間 毅殿
 JA7PF 菅原 信弘殿
 JA7PK 蔦谷 信弘殿
 JA7SL 小山 田正殿
 JA7TI 小遊 佐光殿
 JA7UQ 鹿間 良政殿
 JA7UU 大友 三千男殿
 JA7XC 結城 秀朗殿
 JA7ZJ 鈴木 猪太郎殿
 JA7AAB 小川 七三殿
 JA7ACP 上崎 武男殿

JA7AEM 樋口 雄殿
 JA7AGG 降旗 武敏殿
 JA7AGV 平野 康殿
 JA7AIY 小尾 昇殿
 JA7AJH 小尾 和俊殿
 JA7ASJ 小尾 裕洋殿
 JA7ASS 小尾 晃男殿
 JA7BDP 柳田 昭功殿
 JA7BGW 上杉 久夫殿
 JA7BYG 早藤 陸殿
 JA7BZU 工関 俊達殿
 JA7CXQ 熊谷 美夫殿
 JA7DUS 池田 由美殿
 JA7DVL 池田 武誠殿
 JA7DXW 布階 隆志殿
 JA7DXX 二大 森秀政殿
 JA7EGT 大斎 部厚殿
 JA7EMG 阿大 友豊殿
 JA7ENI 阿大 野悦殿
 JA7EWO 阿大 野子殿
 JA7EYK 阿大 野子殿
 JA7FDZ 庄金 沢伸殿
 JA7FFN 石野 和秀殿
 JA7FMZ 石野 和秀殿
 JA7FTR 佐藤 秀一殿
 JA7GDR 草草 刈一殿
 JA7GFE 芳賀 哲男殿
 JA7GJE 佐藤 静雄殿
 JA7GQB 浅野 昭敬殿
 JA7HRZ 田中 敬二殿
 JA7HTU 高橋 和美殿
 JA7HTX 高橋 和美殿
 JA7HUB 高橋 藤文殿
 JA7HUZ 高橋 藤文殿
 JA7IJC 加藤 藤石殿
 JA7ILH 加藤 藤石殿
 JA7IOE 吉尾 勝行殿
 JA7JMU 吉久 間行殿
 JA7JXP 歌川 栄一殿
 JA7KOJ 高橋 政智殿
 JA7LNE 高橋 政智殿
 JA7LQR 高橋 政智殿
 JA7LXX 高橋 政智殿
 JA7MAD 高橋 政智殿

東北地方におけるアマチュア無線の歩み

- 昭和2年 逓信省令により私設無線電信電話実験局が許可される。
(東北の許可状況不明)
- 昭和6年 JARL第1回全国大会開催 (名古屋)
東北より 八木秀次教授(東北帝国大学) 菊池喜充(J3CF)
山口篤三郎(J3CK)の3氏出席
- 昭和9年 仙台逓信局管内のアマチュア局 18局
電信電話 14 電話 1 受信 3 (東北6県+新潟県)
- 昭和15年12月 短波長無線実験局名簿による各県別の局数
青森 0 秋田 5 岩手 6 山形 1 宮城 13 福島 2
- 昭和16年12月 第2次世界大戦勃発以後 免許返上が強いられ実質禁止となる。

終戦後 アマチュア無線は許可にならなかったが組織づくりが始まる。

- 昭和22年9月 JARL東北支部結成
支部長 相川省吾(EX J6DJ 現JR7JMI)
- 昭和23年6月 登録クラブ数 17
- 26年6月 再開第1回国家試験実施 1級2名合格
- 27年12月 アマチュア無線局表に1局掲載(JA7AA? 南米に移住)
- 28年8月9日 JARL東北支部総会開催 東北支部発足 東北支部ニュース発刊
支部長 岩動氏(JA7DF) 事務所 中村氏(故JA7AY)
- 31年8月19日 支部総会開催(秋田市)事務所仙台移転
支部長 故JA7BU 副支部長 JA7BG 会計 JA7CB
支部選出理事 JA7AX・JA7BG
アマ無線局数 宮城 40 岩手 48 秋田 52 山形 24
福島 28 合計 206
- 32年6月1日 第1回電波の日東北管内QSOパーティー
17:00JST-翌17:00JST RST+一連番号+意味のない和文
翌第2回より「オール東北コンテスト」となる

- 33年 JA7RL局開設 (TCS12使用) 「ONE DAY JA7賞」制定
- 34年 電話級・電信級新設 国試実施
 JA7RL社団法人となる
 支部長 JA7HC 副支部長 JA7BG 総務幹事 JA7JH
 会計幹事 故JA7IQ 渉外幹事 JA7OP
 評議員 JA7AY・JA7CL 全国理事 JA7BU
 管内定時連絡設定 毎月5・15・25日 07:00-08:00JST 7060KC AM
- 35年5月24日 チリ地震津波に際し、JA7RL局を宮城県志津川町に派遣し非常通信実施。
 翌年 東北電波監理局長・東北地方非常無線協議会長より表彰。
- 39年5月24日 第6回JA7RL全国総会を開催。(東北電子学院 370名出席)
- 42年4月 県連事務所設置 評議員を所長とする。
 青森 JA7DZ 秋田 JA7DW 岩手 JA7AK
 山形 JA7CL 宮城 JA7OP 福島 JA7BT
- 8月 豪雨で孤立した山形県小国町に空路機材を輸送、非常通信を実施。
- 43年 東北電波監理局内にJA7RL東北地方事務局設置 山本 一氏発令
- 43年2月15-17日 支部局更新記念SSB普及公開実験 仙台市丸光デパート
 JA7RL 支部長宅に設置 仙台市千代田町 (JA7HC宅)
- 45年 高橋ビルに移転。事務長 故佐藤長四郎氏 事務員 福島理恵子氏
- 47年 東北支部報がJA7RL NEWSに掲載されることになり廃刊。
- 5月14日 東北支部大会を松島海岸において開催。
 以後 地方本部、県支部制となる。
- 48年 新組織による発足 地方本部長 JA7HC
 監査長 JA7IW 会計監査 JA7CC
 支部長 青森 JA7ELP 秋田 JA7AB 岩手 JA7AK
 山形 JA7AQR 宮城 JA7BGW 福島 JA7BO
 評議員 青森 JA7ADD 秋田 JA7AB 岩手 JA7AY
 山形 JA7CL 宮城 JA7OP 福島 JA7BT
- 50年 JA7AO 松本 得朗氏 世界初の6バンドWACを完成
- 51年10月 山形県酒田市の大火の際ハム20局以上が非常通信を実施
 翌年 JA7RL総会において表彰さる
 酒田クラブ消防庁長官賞・県知事賞受賞

- 52年5月29日 第19回JARL総会を山形県天童市民文化センターで開催
「さくらんぼ総会」約1500名参加
- 54年7月 支部事務局立町ビルに移転 事務長 小田桐氏
- 54年10月 8J7ITU記念局開設（55年，56年，60年，H2年開設運用）
- 55年10月 東北地方事務局にビーコン局（JA7IGY）開設 以後各県移設
1295.5MHZ F2
- 56年4月4日 地方事務局に移動局 JA7YRL免許さる
第1回宮城県ハムの集い開催 栗駒 駒の湯
- 56年10月 ビーコン局（JA7IGY）2400MHZ 増設
- 57年10月5日 地方事務局に直轄レピーター局（JR7WA）開設 以後一般団体局
も順次免許になる
- 59年5月 地方本部と蔵王クラブ共催により宮城県角田市NASDAロケット
センター見学会開催
- 61年5月25日 第28回JARL通常総会開催 福島県文化センター
- 62年7月18日-9月28日 「未来の東北博」においてJA7RL公開運用
仙台港地区 交信局数 10,843
- 63年7月9日-9月18日 「青函トンネル開通記念博覧会」において8J7XPO開設
青森市 交信局数 22,187
- 平成3年7月4日-8日 「91'インテリジェントフェア イン 仙台」8J7IFS
開設 仙台市体育館 交信局数 約3,000 30かトリ-
- 4年7月4日-9月15日 「三陸・海の博覧会」において8J7SEA開設

J A R L 歴代支部長

(昭和28年-昭和47年までは東北6県が一つの支部であった。)

昭和28年	J A 7 D F
昭和31年	J A 7 B U
昭和34年	J A 7 H C
昭和35年	J A 7 B G
昭和37年	J A 7 H C
昭和39年	J A 7 B R G
昭和41年	
昭和47年	J A 7 H C

組織改正により以下地方本部長となる

昭和47年	
昭和52年	J A 7 H C
昭和53年	
昭和56年	J A 7 B B
昭和57年	J A 7 O P
昭和59年	J A 7 B B
昭和61年	J A 7 A F P
昭和62年	J A 7 B B 残存期間
昭和63年	
平成4年	J A 7 C C R

日本のアマチュア無線戦後のあゆみ

- | | |
|----------|--|
| 昭和16年12月 | 太平洋戦争開戦により、アマチュア無線局（私設無線電信無線電話実験局）は、その使用が停止された |
| 昭和20年 | 終戦とともにこの年JARLの有志が集まり、アマチュア無線の再開に向けて運動を開始した |
| 昭和21年3月 | JARLはアマチュア無線再開をGHQ（連合軍総司令部）へ請願した |
| 8月 | 葦前工業会館（東京・新橋）で戦後初めてJARLの大会が開催された |
| 9月 | JARL機関誌として「CQ ham radio」が創刊され科学新興社より発行、この号に「JARL NEWS」第96号が掲載され復刊した |
| 昭和22年10月 | 戦後2回目のJARL総会が東京工大で開催された |
| 昭和23年8月 | 「CQ ham radio」がCQ出版社により発行されることになった |
| 11月 | JARL盟員番号（SWLナンバー）を発給、SWL活動の推進を図る |
| 昭和24年～ | アマチュア無線再開のための署名運動が実施され4,300通が集まった |
| 昭和25年2月 | 電波法案について衆議院の電気通信委員会公聴会でJARLがアマチュア無線の再開について要望を行った |
| 4月 | 電波三法が制定され、電波法にアマチュア無線の制度が定められ、6月1日施行された |
| 昭和26年6月 | 第1回アマチュア無線技士国家試験が施行された |
| 昭和27年6月 | 講和条約発効にともないアマチュア無線の免許方針が決まり、周波数は3.5、7MHzはスポット（ただし3.5MHzの割当は当分の間留保）で、14、21、28、50、144、1200、2300、5600、10000MHz帯はバンド指定決まる。呼出符号は、JA1からJA8までは現在と同じエリアに、北陸はJA2WAから信越はJA1WAから指定されることとなった |
| 7月 | 同月29日、30名に対し戦後初のアマチュア局の予備免許が与えられ、アマチュア無線の電波が再び日本の空によみがえった |
| 昭和28年3月 | 初の「JARL編著 ラジオアマチュア ハンドブック」が完成、誠文堂新光社より発売された |
| 5月 | 留保されていた3.5MHz帯がスポットで許可になった |
| 昭和29年11月 | 3.5及び7MHzがスポットからバンドによる指定に変わった |
| 昭和32年 | JARLは国際地球観測年（IGY）に協力し、電波伝搬調査等のためJA1RL、JA1IGY局を設置した。また日本として南極で初のアマチュア局JA1JGが運用された |

- 昭和33年4月 電波法が改正されこれまでの第1級及び第2級に加え、電信級及び電話級アマチュア無線技士の資格が新たに制定された。また視覚障害者に免許取得の道が開かれた
- 昭和34年4月 初の電信級及び電話級アマチュア無線技士の国家試験が施行された
5月 JARLの法人化をはかる、社団法人日本アマチュア無線連盟創立総会が東京の日赤本社講堂において開催された
12月 郵政省がJARLを社団法人として認可。空中線電力10W以下のアマチュア局の保証認定制度が始まりJARLでその受付が開始された
- 昭和35年3月 日本初の社団（クラブ）局JA1YAAを東京・飯田橋（当時）の通信博物館にJARLが開設した
6月 144MHz帯の146～148MHzが削減された
7月 435MHzがスポットで新しく割当になった
- 昭和36年3月 JARLでサブバンド（フォーンバンド）を制定した
4月 第2級に全バンド、電信級及び電話級に21, 28MHz帯が運用できるようになった
- 昭和37年7月 アマチュア無線再開10周年記念式典が東京・新宿厚生年金会館で挙行された
- 昭和38年12月 JARL事務局が東京・文京区西丸町から東京・豊島区巣鴨のCQビル（現在の場所）に移転した
- 昭和39年1月 435MHzが430～440MHzのバンド指定になった
4月 1,880kHzがスポットで許可された
- 昭和40年6月 電波法が改正され電信級及び電話級アマチュア無線技士の養成課程講習会制度ができた
- 昭和41年3月 初の養成課程講習会が東京・渋谷の東京都児童会館で行われた
6月 1.8MHz帯に変わり1.9MHz帯（1,907.5～1,912.5kHz）が割当られた
- 昭和42年2月 JARLがアマチュア・コードを制定した
- 昭和43年4月 初のIARU第3地域会議がオーストラリアのシドニーで開催された
12月 JARL編著の「JARLアマチュア無線ハンドブック」がCQ出版社より刊行された
- 昭和44年8月 小笠原諸島の日本復帰を記念しJARLは父島にDXベディションを行った
- 昭和45年3月 大阪世界万国博覧会（EXPO '70）に特別局JA3XPOが設置された
9月 社団局において外国人の運用が可能となった

- 昭和46年 1月 7MHz帯でアマチュア無線の電波を停波し侵入電波の調査を行った
3月 第2回 I A R U 第3地域会議が東京・千代田区の全共連ビルで開催された
- 9月 J A R Lで制定した「V・UHF帯利用区分」が実施された
- 昭和47年 5月 沖縄が本土に復帰しプリフィックスはK R 8がJ R 6になった
5月 松山市で開催されたJ A R L第14回通常総会で組織改正が行われ、これまでのエリア単位から都道府県を単位とした支部に替えることとなり、8月から実施された
7月 アマチュア無線再開20周年記念式典が東京の赤坂プリンスホテルで同月29日に挙行された
- 昭和48年 7月 J A R Lは7月29日を「アマチュア無線の日」と定め、東京・千代田区の全共連ビルで記念講演会が開催された
- 昭和50年 1月 3.8MHz帯 (3,793~3,802kHz) が新たに割当てられた
4月 第1回全日本ハムベンションが静岡県富士宮市のグリーンパークで開催された
- ※ この年わが国のアマチュア局数が30万局を超え米国を抜いて世界一となった
- 昭和51年 5月 J A R Lは創立50周年を記念し沖の鳥島にD Xペディションを行った
11月 J A R L創立50周年記念式典が東京・文京区の椿山荘で挙行された
- 昭和52年 9月 日本アマチュア無線開設50周年記念式典が東京・港区のホテルオークラで挙行され、記念切手が発行された
アマチュア無線再開25周年記念式典が東京・中央区のホテル浦島で挙行された
第1回アマチュア無線フェスティバルが東京・晴海の東京国際貿易センター南館において開催された
10月 東京・巣鴨のJ A R L事務局分室にJ A R L技術研究所が置かれた
- 昭和53年 7月 視覚障害者も上級資格を取得することができるようになった
- 昭和54年 2月 J A R L会員が10万名を超えた
12月 W A R C - 79によりアマチュア業務に新たに10, 18, 24MHz帯や40GHz以上に新バンドが割当てられた
- 昭和55年 4月 東京・巣鴨にJ A R L展示室が開設され資料・参考品の一般公開を開始した
12月 J A R Lによるアマチュア無線局名録の発行が始まった
- 昭和56年 5月 電波法が改正され、相互主義により外国人の免許取得が可能になった
8月 無線従事者国家試験センターの設立総会が東京・港区の東京都郵便貯金会館で開催された

- 昭和57年3月 東京・巢鴨のJARL事務局分室にわが国初のレピータ局(430MHz帯)が設置された
- 4月 WARC新バンドの10MHz帯が許可された
- 7月 電信級・電話級アマチュア無線技士の操作範囲が拡大され画像通信などでもできるようになった
- 9月 聴力障害者に電話級アマチュア無線技士の免許が取得できるようになった
- 10月 アマチュア無線再開30周年記念式典が東京・港区のホテルオークラで挙行された
- 昭和58年3月 第1回IARU管理理事会が東京で開催された
- 1,200MHz帯初のレピータ局が東京・千代田区の霞が関ビルに開設された
- 7月 JARLの保証認定が100W以下までに拡大された
- 9月 世界通信年(WCY)にちなみ世界アマチュア無線国際会議が東京・千代田区の日本都市センターで開催された
- 昭和60年3月 科学万博つくば'85にアマチュア無線コーナーを開設。初の遠隔操作方式により特別記念局を設置。外国人にも広く運用が認められた
- 8月 アメリカと相互運用が実現し、10月に3名が免許を受けた
- 10月 第1回関東フォックスターリング大会が群馬県北軽井沢で開催された
- 昭和61年5月 初の29MHz帯レピータ局が小笠原の父島に開設された
- 8月 わが国初のアマチュア衛星JAS-1が打ち上げられ「ふじ」と命名された
- 11月 JARL創立60周年記念式典が東京・港区のホテルオークラで挙行された
- アマチュア無線行政管理者コースが東京・千代田区の日本都市センターで開催された
- 12月 3.8MHz帯が5kHz拡大され3,791~3,805kHzになった
- 昭和62年11月 第1回FOXターリング全国大会が富士山麓朝霧高原で行われた
- 平成元年7月 WARC新バンドの18及び24MHz帯が許可された
- 平成2年2月 わが国2番目のアマチュア衛星JAS-1bが打ち上げられ「ふじ2号」と命名された
- 3月 3月末の統計でアマチュア局数が1,027,101局となり100万局を超えた
- 5月 わが国の無線従事者制度が改正され電信級は第3級、電話級は第4級アマチュア無線技士にそれぞれ変わった
- 平成3年6月 アマチュア局の無線設備への技術基準適合証明の導入とアマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別に関する省令改正が行われた
- 8月 財団法人日本アマチュア無線振興協会(JARD)が設立された
- 平成4年1月 28MHz帯の空中線電力が500Wまでに拡大された
- JARL会員局名録が刊行された
- 4月 JARDが本格的に業務を開始し技適証明及び保証認定業務が始まった
- 7月 アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別が施行された

アマチュア無線再開40周年
東北地方記念式典実行委員会担当者

東北本部長	高山 博之	JA7CCR	青森県支部長	菊地 聖貢	JA7NL
監査長	小林 泰晴	JA7HOQ	岩手県支部長	秋山 常郎	JA7AJF
会計	鈴木 梧朗	JA7IB	秋田県支部長	上野 清	JA7ZL
東北事務局	柳川 司	事務局長	山形県支部長	片桐 一男	JA7IF
	高嶋 賢治		宮城県支部長	山之内俊彦	JA7AIW
	山口 武義		福島県支部長	高久田 稔	JA7TX
	木村 恭				
	浅田 健				
	結城 ひろ子				

実行委員長	山之内俊彦	JA7AIW
委員	野口 光男	JA7HC
	小田島一郎	JA7OP
	三浦 博行	JA7WY
	小川 七三	JA7AAB
	磯田 一	JA7CQF
	後藤 栄一郎	JA7EH0
	菅沢 義行	JA7GQA
	伏見 守可	JA7JED
	朝倉 親	JA7KFB
	佐藤 雄孝	JA7UQB
	若生 公郎	JH7QLR
	西山 精一	JF7KET
	小松 照雄	JR7HFP